

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00747

研究課題名（和文）留学生のキャリア意識・支援の実態解明と組織横断的なキャリア支援システムの構築

研究課題名（英文）Clarification of the reality of career awareness and support and establishment of a cross-organizational system for career development support for international students.

研究代表者

寅丸 真澄（Toramaru, Masumi）

早稲田大学・日本語教育研究センター・教授

研究者番号：60759314

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、大学留学生のキャリア意識と行動、キャリア支援の実態を混合研究方法により明らかにし、日本語教育の観点から、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルを構築することであった。本研究では、まず(1)大都市・地方大学に在籍している大学留学生に対するキャリア意識と就職活動に関する実態調査、(2)大学留学生向けキャリア支援の組織体制と施策の実態調査、(3)キャリア支援を行う大学教員や職員、専門家を対象とした活動内容と問題意識に関する調査を行い、質的・量的に分析した。次に、その結果をもとに、留学生のライフに寄与するキャリア支援の在り方を検討し、組織横断的なキャリア支援システムの構築を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、次の3点である。1点目は、大学留学生に対してより効果的なキャリア支援を行うため、大学留学生及び大学教員、職員、キャリア支援の専門家に対する調査を行い、大学留学生のキャリア意識と、彼らを取り巻く人的・組織的環境の実態を明らかにしたことである。2点目は、キャリア支援を行う上で人的・組織的環境に存在する問題点を可視化し、教育現場と支援組織が有機的に連携する必要性を指摘したことである。3点目は、大学留学生の自己実現に寄与するキャリア支援を目的として、日本語教育の観点から、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルの構築を試みたことである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify career awarenesses and behaviors of university-level international students in actual career supporting situations, and then to build a practical model for a cross-organizational career support system from the viewpoint of Japanese language education. In this study, the following research was conducted and analyzed qualitatively and quantitatively. The scope comprised investigation of: (1) career awarenesses and job-searching activities among international students enrolled in metropolitan and regional universities, (2) the organizational structure of institutions and the degree of career support, as well as (3) problem awareness and how university faculty, staff, and specialists who provide career support, address issues. Subsequently, based on these results, an ideal career support model that contributes to international student life was devised, based on which an attempt was made to establish a cross-organizational career support system.

研究分野：日本語教育

キーワード：大学留学生 キャリア意識 キャリア自律 組織横断的な連携 キャリア支援システム 対話型キャリア教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## ■研究の概要

本研究の目的は、国内高等教育機関に在籍する大学留学生（以下、「留学生」）のキャリア意識と行動、キャリア支援の実態を混合研究方法によって明らかにした上で、その調査結果を踏まえ、日本語教育の観点から、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルを構築することであった。本研究では、3つの段階を設定した。

第一段階では、次の①から③の調査分析を実施した。調査①では、高等教育機関（大首都圏・地方）に在籍し日本語を学習する留学生を対象に、キャリア意識と就職活動等の実態をアンケート調査、M-GTA、ライフストーリー・インタビューによる混合研究方法によって明らかにした。調査②では、留学生のキャリア支援の組織体制と施策の実態を、大学（大都市圏・地方）の資料調査と大学関係者への聞き取り調査によって明らかにした。調査③では、キャリア支援に従事する大学教員や職員、専門家等を対象に、キャリア支援者の活動内容や問題意識を質的調査により明らかにした。

第二段階では、第一段階の調査結果をもとに、留学生のライフに寄与するキャリア支援の在り方について、各教育機関の実態を踏まえて検討、可視化し、実施可能な施策を立案した。

第三段階では、それらの施策を試行して効果を検証し、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルの構築を試みた。

## ■キーワード

大学留学生、キャリア意識、キャリア自律、組織横断的な連携、キャリア支援システム、対話型キャリア教育

### 1. 研究開始当初の背景

近年、グローバル化が顕著な高等教育機関では、留学生のキャリア支援が喫緊の課題となっている。各高等教育機関では、日本人学生の就職活動支援に加え、留学生に対しても、その社会文化的背景や特性を踏まえたキャリア支援が行われるようになってきた。しかし、現在積極的に実施されている支援は、就職活動支援を中心としたワークキャリアのための支援であり、多様な留学生の需要に十分に応えているとは言えない。英語学位プログラムやダブルディグリープログラム等の拡充により、留学生のキャリア選択が多様化している現在、短期的視点から行う国内就職活動支援のみならず、国内外の就職や進学を射程に入れた長期的視点によるライフキャリア支援が必要である。近年、長期的視点から、ワークキャリアの充実を目指したキャリア自律の重要性が指摘されているが、留学生にとっても同様であると言える。

しかし、社会に貢献し得るグローバル人材の育成を目指して、長期的な視点から留学生の企業就職や大学院進学を支援しようとするキャリア自律支援は端緒に就いたばかりである。そのため、留学生自身のキャリア意識やその支援の実態は十分に明らかにされていない。また、各高等教育機関において、適切な施策が実施されているとはいえない。

以上のような状況を改善するためには、留学生の現状を踏まえたライフキャリア教育、すなわち、留学生の自己形成や自己実現を支援するキャリア教育を行う必要がある。さらに、そのようなキャリア教育をより効果的に行うためには、留学生のキャリア意識と留学生を取り巻く人的・組織的環境の実態を明らかにすること、及びそこに存在する問題点を可視化し、教育現場と支援組織が有機的に連携することが重要である。そこで本研究では、高等教育機関に在籍する留学生のキャリア支援を目的として、日本語教育の観点から、留学生のキャリア意識とキャリア支援組織の支援の実態を明らかにし、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルを構築することを課題とした。

なお、日本語教育分野において、留学生のためのキャリア教育について検討する意義は大きい。日本語能力は留学生の生活やキャリア自律に必須の基礎的能力であり、日本語学習が留学生の学習の基底をなしていること、及び、それゆえ日本語教育や日本語教師が留学生と社会の結節点としての役割を担っていると言えるからである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、高等教育機関に在籍する留学生のキャリア意識と行動、キャリア支援の実態を混合研究方法によって明らかにした上で、その調査結果を踏まえ、日本語教育の観点から、組織横断的なキャリア支援システムの実践モデルを構築することである。これにより留学生とそのキャリア支援者の意識と行動の実態解明が進み、教育機関や組織、支援者の連携が実現すれば、留学生のキャリア支援をより効果的に実施できると考えられる。

### 3. 研究の方法

本研究の研究課題は、次の3点であった。

- (1) 留学生自身はキャリアについてどのように捉え、そのためにどのような活動を行っているのか。
- (2) 留学生を取り巻く人的・組織的環境（教育機関の教員や職員・組織等）は留学生のキャリアの問題に対してどのような意識を持ち、どのような施策を行っているのか。
- (3) (1) (2)を踏まえ、日本語教育では留学生の効果的なキャリア支援のために、留学生を取り巻く人的・組織的環境において、どのような具体的施策を行えばよいのか。

本研究では、以上の研究課題を解決するため、以下の三段階の調査研究を実施した。

第一段階では、課題(1)(2)に応えるため、次の①から③の調査分析を実施した。①大学（大都市圏・地方）に在籍する留学生を対象に、キャリア意識と就職活動等の実態についてアンケート調査を実施し、量的分析を行った。また、M-GTA、ライフストーリー・インタビューによる質的分析を行い、留学生のキャリア意識とキャリア支援の実態を明らかにした。②大学（大都市圏・地方）の留学生向けキャリア支援がどのような組織によっていかに行われているのかを資料調査と聞き取り調査により明らかにした。③大学で留学生支援に従事する教員や職員、及び専門家を対象に、支援者の活動内容や問題意識を質的調査によって明らかにした。

第二段階では、前年度に行った実態調査の分析を踏まえ、留学生のキャリア意識と行動、支援組織の制度体制、支援者の問題意識等の関係性を可視化し、その中で生じている課題や問題を示唆した。その後、(3)を明らかにするため、課題や問題を解決、解消するために行うべき施策を検討した。

第三段階では、前段階で検討した組織横断的なキャリア支援システムの具体的な実践モデルとして、PBL (Project-Based Learning) による対話型キャリア教育を試行し、その効果を検証した。

### 4. 研究成果

上記3つの研究課題について調査分析を行った結果、次の点が明らかになった。

- (1) 留学生自身はキャリアについてどのように捉え、そのためにどのような活動を行っているか。

アンケート調査による量的分析では、①留学の目的は何か、①キャリアに何を望むのか、②就職に向けてどのような行動をしているのかという3点について分析した。分析の結果、留学目的は日本の言語文化への関心と日本への就職意識の2つに分類できることが示唆された。さらに、A日本の言語文化への関心は高いが就職意識は低い、B日本の言語文化への関心が低いが就職意識はある、C日本の言語文化への関心も就職意識も高いという3群が観察され、それぞれの特徴が明らかになった。これら3群の特徴を踏まえたキャリア支援としては、4点が挙げられる。第一に、留学目的よりキャリアに対する価値観の有無が将来を見据えた学習に結びついていることから、教育機関では、留学生の学年や成長過程に応じてキャリアに対する価値観を段階的に醸成させていく必要がある。第二に、個人・社会志向の留学生が将来のキャリアのための学習に取り組む傾向が強いことから、自己意識と社会性の成長をバランスよく促すことが重要である。第三に、就職目的のみで来日した留学生は日本で生活しながら仕事を通して自己成長するという動機づけが弱いことから、日本の社会文化に対するコミットメントを深められるようなキャリア教育が期待される。第四に、留学目的やキャリアに対する価値観に関わらず、就職に向けた具体的な活動を行っている留学生が少ないことから、教育機関ではそのような活動を促進する細やかな支援が求められる。

- (2) 留学生を取り巻く人的・組織的環境（教育機関の教員や職員・組織等）は留学生のキャリアの問題に対してどのような意識を持ち、どのような施策を行っているか。

首都圏と地方の高等教育機関に在籍するキャリアセンター職員及びキャリア支援を行っている専門家らに対して半構造化インタビューを行った。次に、その文字化資料から概念を抽出した結果、以下の傾向を留学生のキャリア形成上の課題として捉えていることが明らかになった。①キャリアに必要な日本語力と自己表現力の不足、②日本の社会文化に対する理解の偏りと視野の狭さ、③企業や社会の評価基準に対する認識不足と自己評価の甘さ、④将来に対する現実的な視点の未成熟、⑤インターンシップやアルバイト等、日本社会における実体験の少なさ、⑥就職活動における学内機関・リソースの未利用と、私的な人間関係からの情報に対する依存、⑦就職活動に関する情報収集不足である。

- (3) (1) (2)を踏まえて日本語教育の観点から検討した場合、留学生の効果的なキャリア支援のために、留学生を取り巻く人的・組織的環境において、どのような具体的施策を行えばよいか。

大学留学生に関わる日本語学校・大学・大学院の事例を踏まえた質的調査研究、及びその結果を踏まえた発表やパネルセッションにおける参加者との議論等から、留学生個人、身近な他者、教育機関・支援者・支援組織、企業・地域等のコミュニティ、社会制度の各層における問題点と課題を明らかにした。問題点から示唆できる課題は次のようなものであった。

- 【1】「個人の問題」に対応する課題
  - ①就業に必要な日本語能力の向上
  - ②日本の社会文化に対する知識理解の向上
  - ③①や②を踏まえた明確なキャリア意識の形成
- 【2】「身近な他者に関わる問題」に対応する課題
  - ④留学生の社会文化的背景や考え方等に対する理解力の向上
  - ⑤友人や先輩、身近な他者を含むネットワークの形成支援
- 【3】「教育機関・支援者・支援組織に関わる問題」に対応する課題
  - ⑥多様な留学生それぞれの個別性に寄り添った支援の実施
  - ⑦与えられた人材や時間を有効活用したキャリア形成支援の実施
  - ⑧キャリア形成に資する多様で有意義な教育の実現
  - ⑨キャリア形成を支える支援者・支援組織の連携の促進
- 【4】「企業・地域等のコミュニティに関わる問題」に対応する課題
  - ⑩企業側の留學生理解の促進
  - ⑪企業理念、企業活動、職務内容、求める人材像等に関わる企業からの積極的な発信
- 【5】「社会制度に関わる問題」に対応する課題
  - ⑫留学生のキャリア形成を社会の中で支援する視点の醸成と具体的施策の実施

以上の結果から、留学生のキャリア形成には個人、身近な他者、教育機関・支援者・支援組織、企業や地域等のコミュニティ、社会制度といった複数の層にわたる問題が関わっていること、及び具体的な支援を行うには各層内及び各層間の連携が必要であることを指摘した。

また、関係者と関係各所の連携に加え、日本語教育においては、留学生の自己実現を支援するため、留学生のキャリア意識を醸成しつつ、主体性と問題解決能力、異文化理解力、日本語能力の育成が重要であることが示唆された。そこで、本研究では、他者や社会との主体的なコミュニケーションや活動を通して、自己・他者・社会を知り経験することのできる、PBL (Project-Based Learning) による対話型キャリア教育実践を試み、その成果を検証した。

以上の研究成果は、これまで明らかにされてこなかった留学生及びキャリア支援者のキャリア意識や行動の実態を解明し、教育機関や支援者・支援組織の連携を促す上で有意義な知見であると考えられる。また、日本語教育の観点から検討したPBL (Project-Based Learning) による対話型キャリア教育実践は、今後の留学生向けキャリア教育の展開に寄与することが期待される。

今後は、COVID-19による調査時期の変更により発行が遅滞した論文の他、調査分析結果の未報告資料等を整理し、留学生教育及び日本語教育に寄与し得るさらなる知見を提供する計画である。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 寅丸真澄・家根橋伸子・松本明香・佐藤正則	4. 巻 1
2. 論文標題 留学生のキャリア支援の実態と課題 日本語教師と学習者の意識の「ずれ」に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育学会2019年度秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 家根橋伸子・佐藤正則・重信美和子・寅丸真澄・松本明香	4. 巻 1
2. 論文標題 ベトナム人留学生のキャリア意識と日本語教師によるキャリア支援を考える 日本国内大学・短期大学留学生の語りをもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語文化教育研究学会第7回研究集会予稿集	6. 最初と最後の頁 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 家根橋伸子・佐藤正則・寅丸真澄・松本明香	4. 巻 1
2. 論文標題 中国人留学生のキャリア意識の変化と自律性 キャリア教育との連携をめざして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育学会2020年度春季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 361-367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・饗場淳子・作田奈苗	4. 巻 3
2. 論文標題 短期ビジネス日本語プログラムにおけるProject-Based Learningの意義と可能性 体験による学びとキャリア支援という二つの観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BJジャーナル	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本明香	4. 巻 50
2. 論文標題 短大留学生のキャリア形成と「私の日本語」観 ベトナム人元留学生Aのライフストリーより	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京立正短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 137-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄	4. 巻 58
2. 論文標題 インターンシップ面接場面におけるコミュニケーション・ストラテジー使用に関する一考察 中国人日本語学習者によるロールプレイ会話の質的分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21808/KJJE.58.02	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本明香・佐藤正則	4. 巻 14
2. 論文標題 留学生のキャリア形成を日本語教師はどのように捉えているか 6人の日本語教師の相互インタビューから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄	4. 巻 24
2. 論文標題 ライフキャリアの形成につながる複言語複文化能力の育成 M-GTAによるイタリア人女子留学生の語りの分析を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AJEヨーロッパ日本語シンポジウム論集	6. 最初と最後の頁 540-551
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本明香・家根橋伸子	4. 巻 24
2. 論文標題 留学生のキャリア形成と「JLPT問題」 複言語・複文化能力を強みにできないジレンマの語りから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AJEヨーロッパ日本語シンポジウム論集	6. 最初と最後の頁 569-663
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄	4. 巻 7
2. 論文標題 成人日本語学習者のライフキャリアにおける留学の意味 アイデンティティとトランジションの体験の語りから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語りの地平	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東山晃・佐藤正則	4. 巻 1
2. 論文標題 教育におけるケアの意味 分野の異なる教師のインクルーシブ教育を巡る対話を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語文化教育研究会第8回年次大会予稿集	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・尹智鉉	4. 巻 9
2. 論文標題 早稲田大学の日本語学習者が育むべき「ビジネス・コンピテンシー」とは何か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育実践研究	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 多様な留学生の包摂的キャリア支援を考える 周縁化とインターセクショナリティの観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語文化教育研究会第8回年次大会予稿集	6. 最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 国内大学留学生のキャリア意識と行動 アンケート調査の統計分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育学会2022年度春季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 キャリア支援者は外国人留学生のキャリア形成をいかに捉えているか 高等教育機関におけるインタビューから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育学会2022年度秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 241-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 大学院留学生のキャリア形成過程に関する探索的研究 人的・物理的環境と心理的課題を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語教育学会2023年度秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 357-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 留学生のキャリア形成支援に関わる人・組織の連携を考える 日本語学校・大学院の事例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語文化教育研究会第9回年次大会予稿集	6. 最初と最後の頁 172-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄	4. 巻 34
2. 論文標題 留学生のキャリア自律支援としての日本語教育 持続可能なキャリアを実現するエンプロイアビリティからの一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・齊藤千鶴・中島智・中本寧・松野芳夫・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 21
2. 論文標題 留学生のキャリア形成支援のための組織横断的な支援システムの構築 日本語学校・大学・大学院の事例から人・組織・機関・社会の連携を考える	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 言語文化教育研究	6. 最初と最後の頁 278-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14960/gbkkg.21.278	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子	4. 巻 1
2. 論文標題 教師間の共創的対話の可能性 日本語学習者のライフキャリア教育を目指して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 言語文化教育研究会第10回年次大会	6. 最初と最後の頁 210-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 寅丸真澄・家根橋伸子・松本明香・佐藤正則
2. 発表標題 留学生のキャリア支援の実態と課題 日本語教師と学習者の意識の「ずれ」に着目して
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 家根橋伸子・佐藤正則・重信美和子・寅丸真澄・松本明香
2. 発表標題 ベトナム人留学生のキャリア意識と日本語教師によるキャリア支援を考える 日本国内大学・短期大学留学生の語りをもとに
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第7回研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 家根橋伸子・佐藤正則・寅丸真澄・松本明香
2. 発表標題 中国人留学生のキャリア意識の変化と自律性 キャリア教育との連携をめざして
3. 学会等名 日本語教育学会2020年度春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寅丸真澄
2. 発表標題 キャリア教育×SDGs 自己，企業，社会をつなぐキャリア教育実践（パネル「SDGs×日本語教育 持続可能な社会の実現に向けた日本語教育の役割とは」毛利貴美・古川智樹・寅丸真澄・中井好男）
3. 学会等名 日本語教育学会2020年度秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本明香
2. 発表標題 「つらさ」や「不安」の回避のための進路変更 短大元留学生のキャリアについての語りより
3. 学会等名 2021年度早稲田日本語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寅丸真澄
2. 発表標題 ライフキャリアの形成につながる複言語複文化能力の育成 M-GTAによるイタリア人女子留学生の語りの分析を通して
3. 学会等名 AJEヨーロッパ日本語シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本明香・家根橋伸子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成と「JLPT問題」 複言語・複文化能力を強みにできないジレンマの語りから
3. 学会等名 AJEヨーロッパ日本語シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 東山晃・佐藤正則
2. 発表標題 教育におけるケアの意味 分野の異なる教師のインクルーシブ教育を巡る対話を通して
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第8回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子
2. 発表標題 多様な留学生の包摂的キャリア支援を考える 周縁化とインターセクショナルリティの観点から
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第8回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄・家根橋伸子・佐藤正則・松本明香
2. 発表標題 国内大学留学生のキャリア意識と行動 アンケート調査の統計分析から
3. 学会等名 日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄
2. 発表標題 学習者の自己形成と自己実現を支えるキャリア形成支援（パネル「留学生のキャリア形成支援の現状と展望」菅長理恵・寅丸真澄・渋谷博子・伊集院郁子・中井陽子）
3. 学会等名 日本語教育学会2022年度春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 留学生のライフキャリアを支援する日本語教育 ライフストーリーが拓げる言語教育の地平
2. 発表標題 寅丸真澄
3. 学会等名 2022年度日本ライフストーリー研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子
2. 発表標題 キャリア支援者は外国人留学生のキャリア形成をいかに捉えているか
3. 学会等名 日本語教育秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅海一郎（講演）
2. 発表標題 外国人留学生のキャリア支援 入社後の活躍を見据えて
3. 学会等名 第57回アカデミック・ジャパニーズ・グループ定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄
2. 発表標題 日本語教育におけるキャリア観の変遷と人間教育としてのキャリア形成支援
3. 学会等名 2022年度韓国日本語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤正則
2. 発表標題 キャリアデザインのための教育実践&#8212;日本語学校と大学の実践から
3. 学会等名 2022年度韓国日本語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本明香
2. 発表標題 国内短大留学生のキャリア形成と「私の日本語」観
3. 学会等名 2022年度韓国日語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 家根橋伸子
2. 発表標題 国内地方小規模私立大学留学生のキャリア意識と教育実践」
3. 学会等名 2022年度韓国日語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寅丸真澄・齋藤千鶴・中島智・中本寧・松野芳夫・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成支援に関わる人・組織の連携を考える：日本語学校・大学・大学院の事例から
3. 学会等名 言語文化教育学会第9回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寅丸真澄・佐藤正則・松本明香・家根橋伸子
2. 発表標題 教師間の共創的対話の可能性 日本語学習者のライフキャリア教育を目指して
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第10回年次大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	松本 明香  (Matsumoto Haruka)  (30442106)	東京立正短期大学・現代コミュニケーション学科・教授   (42652)	
研究 分担者	佐藤 正則  (Sato Masanori)  (50647964)	山野美容芸術短期大学・その他部局等・特任准教授   (42694)	
研究 分担者	家根橋 伸子  (Yanehashi Nobuko)  (80609652)	東亜大学・人間科学部・教授   (35503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------